宮崎大学医学部ウインドサーフィン部　部長　吉本龍矢
顧問　西頭英起

宮崎大学医学部ウインドサーフィン部水上安全対策

1. 水上練習における安全管理

〈装備について〉

出艇する時には、ライフジャケット（規定をクリアしているもの）、ハーネスパンツ、レスキューシート（4㎜×5m）、笛、携帯電話、アクアパック（防水のスマホケース）、を装備する。

夏場（5～11月）は熱中症等予防の為、帽子、ラッシュガード等を着用する。水分を各自必ず持参する。

冬場（12～3月）気温、風速に見合った防寒を行う。

出艇前に正規連では主将が、自主練習では上級生を中心にお互いの装備を確認する。また防寒、避暑の対応ができているかも合わせて確認する。

以上のことができない場合、出艇を禁止する

〈正規練習時の安全管理〉

事前に最大最小風速、風向予報、注意報（遠征先によっては満潮、干潮時間）を調べ部員と共有する。

出艇、帰着申告をオープンチャットにて必ず行う。

一時間ごとに出艇した部員の位置を責任者が確認する。

青島や一つ葉ビーチでの練習（特に風速７m以上やオフで吹く場合）では、可能な限りボートを出して練習する。

〈自主練習での安全管理〉

必ず２名以上で活動する。

出艇、帰着申告をオープンチャットにて必ず行う。

２回生以下で出艇する場合は、毎回主将や３年以上経験のある先輩に相談する。

〈気象条件について〉

1. 風速 12m/s を超えるとき
2. 雷鳴が聞こえている場合または、雷注意報が発令された場合
3. 視程 1,000M 以下または、海上濃霧警報が発令された場合
4. 波高が 1.5mを超えるとき
5. 地震による津波注意報発令
6. その他、警報・注意報が発令された場合

以上の場合、出艇禁止とする。

2. 水上での事故、トラブルの緊急対応について

〈報告の義務〉

以下の場合、直ちに近くの者と現場管理者（主将、経験年数が最長の者）に報告すること。

① 道具トラブル、怪我等により帆走不能になった場合

② 風速、波等の影響によりレスキューが必要となった場合

〈報告方法〉

両手をグーにして大きく振る。

笛を鳴らす。

〈レスキュー方法〉

～ボートがある場合～

1. レスキュー要請を受けた場合またはレスキューが必要と判断した場合、直ちに他の部員を帰着させ、レスキューに向かう。必要に応じて、艇の解体を行う。
2. ボートでのレスキューでは危険が伴う場合、消防（119）や海保（118）に連絡を入れる。
3. レスキューする部員が、艇を牽引して帰着することが危険であると判断した場合、人名優先で救助にあたる。

～ボートがない場合～

1. レスキュー要請が必要な部員は、可能な限り迅速にレスキューを要請すること。
2. 牽引が可能な場合、牽引する艇のボードのストラップと、牽引される艇のノーズをレスキューシートで繋ぎ、最も近く安全な岸に着艇する。
3. 牽引が困難であると判断した場合、直ちに艇を放棄し、人名優先で救助にあたること。
4. 部員での救助が危険であると判断した場合、消防や海保に連絡すること。

<事故報告>

事故発生後、直ちに以下の機関や者に連絡、情報共有すること。

・宮崎海上保安部　交通課

0987-22-3264

・宮崎大学医療人育成支援課

0985-85-9190

メール：gakumu@med.miyazaki-u.ac.jp

・顧問の先生（西頭教授）

LINE

090-2311-6533

・宮崎県セーリング連盟　松宮哲夫

メール：matsumiyatetsuo@gmail.com

3.部内安全対策講習及び訓練

〈安全対策講習会〉

年 1 回部内講習会を主将や 3 年以上経験のある者が中心となり実施する。講習内容は以下の通り。

① 水上活動における注意点、安全対策の説明（新入生対象）

② 救助活動における要救助者、レスキューの要請を受けた者、レスキューする者のそれぞれの役割と行動の確認。

③ シミュレーションを行い、判断、指示、行動を共有する。

④ 前年度にフィードバックされた事故報告をもとに事例を参考に対策案を検討する。

〈水上訓練〉

現場管理者（主将、3 年以上経験のある者）のもと、適宜行う。訓練内容は以下の通り。

① 水上での解体訓練。

② 部船を用いたシミュレーション救難訓練

4. 対策の更新

本対策は適時更新（変更、追加）する。

策定日　令和７年４月２日